

## 皮膚科この1年

皮膚科医長 橋本 任

### 診療体制

医師は、平成20年3月末で、前任の2名がともに名寄を離れ、和田隆医師は、旭川でクリニックの院長となり、大石泰史医師は、東京の虎の門病院皮膚科にて研修中です。

後任として、平成20年4月、橋本 任が旭川医科大学から、井川哲子が旭川厚生病院から赴任させていただきました。また、島村智江が、非常勤医として、仕事を再開し、4月以降、定期的出張が無くなった今、強力な援軍となっております。現在の医療事情、また、女医の割合が高い皮膚科において、出産・育児で一度職場を離れた女医の復帰は、非常に喜ばしいことと考えます。

### 外来診療

外来スタッフは上記3名の医師の他、主に皮膚科勤務の看護師2名と看護助手1名です。

外来診療時間は、月～金の午前と火・水・金の午後で、金曜日は、主に学生を対象に15:30～16:00の予約枠まで設けております。月・木の午後は、原則、手術、皮膚生検、陥入爪に対するワイヤー法などの爪診療、予め判っている水痘、疥癬などの感染症患者の診察などを行っております。

外来患者数は、1日平均約135名と前年度から15～20名程度増加しました。午後の診療のある日は1日150～170名程度来院され、予約外だと2時間程度、外傷、熱傷、いわゆる、Monster patientなどが入ると3～4時間と予約外の患者さんの待ち時間が長くなっていることが大きな問題です。

### 病棟診療

皮膚科の病棟は3階東で、ベット数は昨年同様6床ですが、入院患者数は、昨年まで、平均4名だったのが、今年はベット数の6床まで減ったことがあるかないかで、時に10名以上のこともあり、他の病棟にもお世話になることが再三ありました。この場を借りてですが、3階東、また、ベットを利用していただいた他の病棟のスタッフの方々、大変ありがとうございました。

この1年の入院患者総数は約140名で、前年の2倍以上でした。その内訳は、帯状疱疹、蜂窩織炎を主体とする感染症、悪性リンパ腫2名を含む悪性腫瘍や種々の皮膚良性腫瘍、褥瘡や皮膚潰瘍、熱傷、凍傷が主でしたが、アナフィラキシーショック、中毒疹、薬疹、天疱瘡、類天疱瘡などの自己免疫性水疱性疾患などもおりました。

手術は1年間で138件と前年より20件程増加しました。皮膚、皮下腫瘍摘出術が主ですが、他に皮膚悪性腫瘍摘出術、植皮術、皮弁形成術、毛巣洞手術などを皮膚科のみで施行。乳房外パジェット病の肛門粘膜部切除、悪性リンパ腫のリンパ節生検を外科の竹林先生、昏睡性水疱からの壊死性筋膜炎のデブリードマンを整形外科の後藤先生に助けていただき、ペースメーカー皮膚炎に対しては、循環器内科の島村先生と当科とで島村先生夫婦のコラボレーション～リレーも実現しました。

自動車修理に例えると、皮膚科は表面の塗装屋で、車が走るには、エンジン、オイル、バッテリー、タイヤ等、各科の先生、スタッフ方のお力が必要です。今後ともよろしく願いいたします。